STANDARD®

C8800G

144MHz トランシーバー

超高感度 マイクロコンピューター内蔵

取扱説明書

日本マランツ株式会社

目　次

1.お使いになる前に……1
2.特　長……2
3.各部の名称と動作説明……3
4.取付け方法……5
5.マイコンを使った運用方法……8
(1)運用に当って……8
(2)マイコンの操作……8
❶チャンネルステップの選択……8
❷電源スイッチとバックアップスイッチ……8
❸通常の周波数選択……9
❹周波数をメモリーさせる方法……9
❺ACCESSORY機能……11
❻メモリー周波数を変更するとき……11
❼メモリー周波数を呼び出す方法……11
❽周波数スキャンの方法……11
❾CALLキィーの使い方……13
❿その他の操作(便利な使い方の例)……13
(3)受信の方法……13
(4)送信の方法……14
(5)アクセサリー端子……14
(6)圧電ブザーの音量調整……14
(7)マイコンのリセット……14
6.申請書の書き方……15
7.保証・アフターサービスについて……15
8.定　格……16

このたびは、144MHz トランシーバーC8800Gをお買上げいただきまして誠にありがとうございました。
このC8800Gは、当社の厳重な品質管理及び検査のもとに生産、出荷されておりますが、万一ご不審な点、お気付きの点などがございましたら、なるべくお早めにお買上げいただいた販売店あるいは当社営業所、サービスセンターへお申し付けください。
C8800Gの性能を十分に発揮し、末永くご愛用いただくためにこの取扱説明書を最後までよくお読みくださるよう、お願いいたします。

付属品

- UP-DOWN ハンドマイク(MP-716)……1
- DC電源コード……1
- 脚……1
- モービル・ブラケット……1
- 9ピンプラグ……1
- ブラケット取り付ビス……1
- 取扱説明書……1
- 仮保証書……1
- 回路図……1

1.お使いになる前に

■設置場所

C8800Gの設置場所として次の点に留意してください。

①高温、多湿、ほこりの多い場所、特に日光が直接当る場所は避け、風通しのよい乾燥した場所に設置してください。

②ヒートシンクの冷却効果を妨げないよう、背面及び底面には十分スペースをとってください。

③車に取付ける際には、C8800Gの背面が直接シートにふれないようにするなど放熱には十分配慮してください。また、なるべく振動を直接受けない場所や状態での運用を心がけてください。

■電源について

①C8800GはDC13.8Vで運用可能です。大型車など24Vバッテリーには使用できませんのでご注意ください。
C8800Gはメモリーをバックアップできますので、4－(4)項をよくお読みください。

②AC100Vから使用する場合は、別売のパワーサプライに接続してお使いください。

■アンテナについて

C8800Gの性能を十分に発揮していただくためにも特性の優れたアンテナをご使用ください。
アンテナのSWRは1.5以下になるようにアンテナを調整し、使用してください。SWRが悪いと正規の送信電力が出なくなります。アンテナのSWRが4～5以上になると、保護回路が動作して、送信電力が減少し、終段トランジスターを保護します。

2.特　長

■画期的なマイコン内蔵

C8800Gはモービル・トランシーバーの最先端を行くマイコン内蔵の画期的なトランシーバーです。
マイコンにより「記憶」「考え」「判断」を行ない周波数をコントロールします。

●マイコンは次の動作を行ないます。

①任意の周波数を最大5メモリーできます。
②メモリーされたメモリー周波数をスキャンします。
③メモリー5チャンネルと145.00MHz, 145.50MHzの計7チャンネルをスキャンします。
④144.000MHzから144.995MHzおよび145.000MHzから145.995MHzを5kHzまた20kHzステップでスキャンします。
⑤話し中の周波数を自動的に探索します。
⑥空チャンネルの周波数を自動的に探索します。
⑦スキャン・スピードを2段に切換えることができます。
⑧チャンネルステップを5kHz又は20kHzに切換えることができます。
⑨145.00MHz, 145.50MHzを優先的に選択できます。

■すぐれた機能と操作性

●メモリーを正しく保つバックアップ

メモリーされた周波数を保持するために無線機の電源を切ってもつねにメモリーICに電源を入れておくバックアップスイッチが取り付けてあります。
電源電圧が低下するとDC－DCコンバーターが動作しメモリーICの電圧を維持しますので、メモリー周波数が消去されることはありません。

●400チャンネル選択可能

1回転24ステップの無接点チャンネル切換スイッチにより最大400チャンネル選択できます。
(20kHzステップのときは100チャンネル、5kHzステップのときは400チャンネル)

●UP-DOWN装置つきマイクロホン

マイクロホンにUP-DOWN装置を組込みました。
マイクロホン側で周波数を連続的に可変できます。

●見やすく使いやすい傾斜型パネル

操作性を徹底的に追求した傾斜型パネル、それにメカニカルな機能美、C8800Gは人間工学面の考慮を十分に取り入れました。

■その他の特長

●DX通信に効果的な受信ブースターを内蔵し受信感度を3段に切換えられます。

●9LEDの近代的なメーターを採用。

●目のつかれないグリーン色の4LED周波数表示

●ヘリカル・キャビティーの採用により、すぐれた混変調、相互変調特性。

●8cmの大型スピーカを内蔵。

●電源ノイズ・フィルター回路の採用により、電源から回り込んで来るノイズを防止。

●1個のVCOで行なえる受信用と送信用の発振回路。

●空中線電力は1W／10W切換え可能。

●ダイレクトVCO発振回路の採用により、スプリアスの低減。

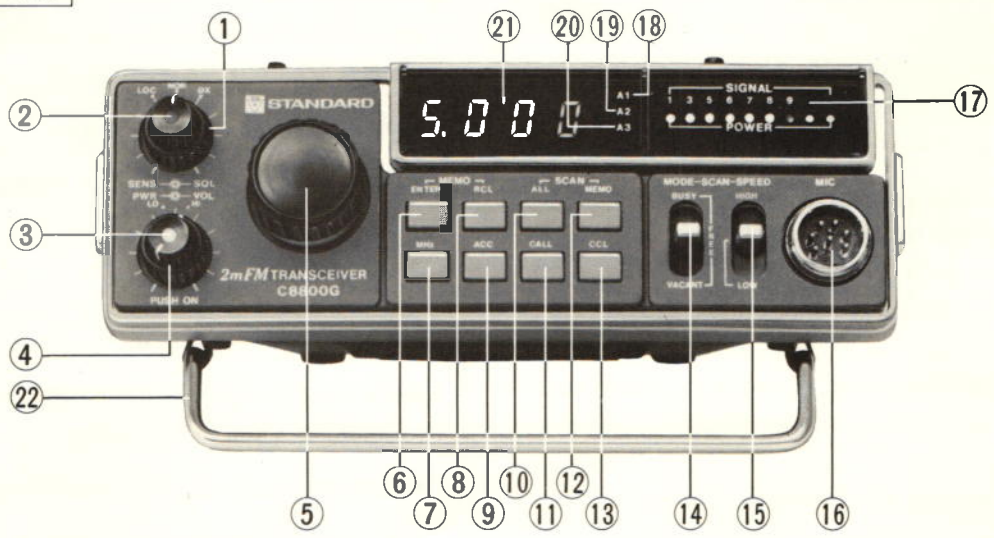
●空中線のSWR並びに電源電圧が変動しても終段トランジスターを保護するAPC回路を採用。

●マイクアンプ部に平均変調度の高い低歪率の変調を可能にしたVOGAD·ICを採用。

●キーボードおよびUP/DOWNスイッチによるコントローラへの命令を音でも確認できるよう圧電ブザーを内蔵。

3. 各部の名称と動作説明

前面パネル



①SENS(SENSITIVITY)

受信感度をDX・NOR・LOCと3段に切換えることができます。遠距離局のときにはDXに、中距離局のときにはNORに、近距離局のときにはLOCに切換えます。

②SQL(SQUELCH)

入力信号がないときにFM特有のザーという雑音を消す場合に使います。右側に少しずつ回して入力信号がないときにノイズが消える位置にセットします。

③PUSH ON/VOL

音量調節つまみと電源スイッチが兼用となっています。つまみを押すことにより、電源スイッチがON－OFFします。又、音量つまみは右側に回すにしたがって音量が大きくなります。

④PWR

送信の空中線電力を1W、10Wと切換えるスイッチです。近距離通信のときに使います。

⑤CHANNEL

チャンネルセレクタースイッチです。周波数の切り換えスイッチで、右側に回転すると周波数が高くなり、左側に回転すると周波数が低くなります。1ステップ5kHz又は20kHz周波数が変化します。

⑥MEMO ENTER

希望する周波数をメモリーさせるためのボタンです。5つの記憶能力があります。
チャンネルスイッチ又はマイクのUP-DOWNスイッチでメモリーしたい周波数にあわせ、このスイッチを押します。

⑦MHz

MHz切換えスイッチです。144MHz帯、145MHz帯をワンタッチで切換えられます。

⑧MEMO RCL

メモリーされた周波数を呼び出すためのボタンです。メモリーした周波数を呼び出して運用するには、このボタンを押します。M1～M5の希望の周波数をM1から順に呼び出すことができます。

⑨ACC(ACCESSORY)

このボタンを押すことによりアクセサリーA_1、A_2、A_3の選択ができます。

⑩SCAN ALL

このボタンを押すことにより、144.00MHz～145.99MHzの間隔を5kHz又は20kHzステップで全周波数スキャンします。

⑪CALL

145.00MHzと145.50MHzの優先選択と、この2つの周波数の切換えボタンです。
1度目で145.00MHz、もう1度押すと145.50MHzになります。

⑫SCAN MEMO

このボタンを押すことによりメモリー回路に記憶された周波数をM1から順に5チャンネルスキャンします。
又このボタンを押す前にCALLボタンを押すことにより、145.00MHz, 145.50MHzの2つの周波数をプラスして、$C_1 \rightarrow C_2 \rightarrow M_1 \rightarrow M_2 \rightarrow M_3 \rightarrow M_4 \rightarrow M_5$の順でスキャンさせることができます。

⑬CCL

各動作モードをキャンセルします。

⑭SCAN MODE

スキャンの動作中に、話し中のチャンネル又は空チャンネルを探し出すためのスイッチです。
BUSY側にすれば話し中のチャンネルを、VACANT側にすれば空チャンネルを探し出します。

⑮SCAN SPEED

スキャンのスピードを切換えるスイッチです。

HIのとき	1ステップ 0.25sec.
LOWのとき	1ステップ 2.0sec.

⑯MIC

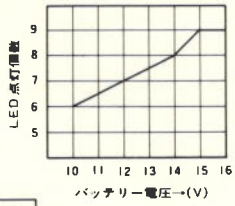
マイクロホンを接続する端子です。

⑰メーター

9 LEDによる近代的なメーター回路です。
SIGNALは入力信号の強弱を、POWERは送信出力を表示します。
又、ACCボタンの操作により次に説明するA_1、A_2、A_3に従った動作をします。

⑱ A 1
メーター表示がＶＵメーターとして動作していることを示します。
受信時は入力信号検波後の AUDIO 信号レベルを表示します。
送信時は変調機の AUDIO 信号レベルを表示します。

⑲ A 2
メーター表示がバッテリーインジケーター表示になっていることを示します。

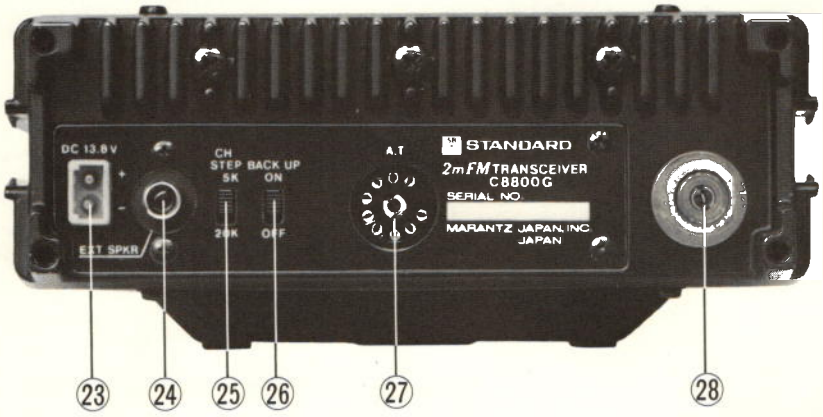


⑳ A 3
メーター表示が PLL の異常動作を示すアンロック表示になっていることを示します。
PLL が何かの原因で異常動作した場合は９個の LED が全て連続点灯します。このときは送信、受信共動作しません。

㉑周波数表示
周波数を表示します。145.500MHzを受信しているときには、周波数表示用発光ダイオードで5.500と下４桁を表示します。又CALLボタンを押すと、４桁目に「C」が表示されます。

㉒スタンド
固定局で使用するときに使います。

背面パネル



㉓DC 13.8V
ＤＣ電源の入力端子です。付属の接続コードを使い、＋(プラス)、－(マイナス)の極性に注意して正しく接続してください。

㉔EXT SPKR
外部スピーカを接続する端子です。インピーダンスは４～８Ωです。

㉕CH STEP
周波数の１ステップを５kHz、又は20kHzと切換えるスイッチです。

㉖BACK UP
無線機の電源スイッチを切ったとき、メモリーICに電圧を加えて、メモリー周波数を保持するスイッチです。
長時間自動車を使用していないときには必ずバックアップスイッチを切ってください。

㉗A.T.(ACCESSORY TERMINAL)
アクセサリー端子です。各端子の機能詳細はアクセサリー端子の項を参照してください。

㉘ANT
アンテナを接続する端子です。インピーダンスは50Ωです。

マイクロホン

㉙UP-DOWNチャンネルスイッチ
周波数の上げ、下げを連続的に可変できるボタンです。

㉚PTT
送信用のプレストークスイッチです。押すことにより送信状態になります。

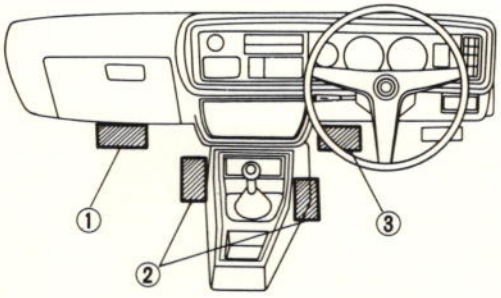
4.取付け方法

モービルの場合

(1)セットの取付け

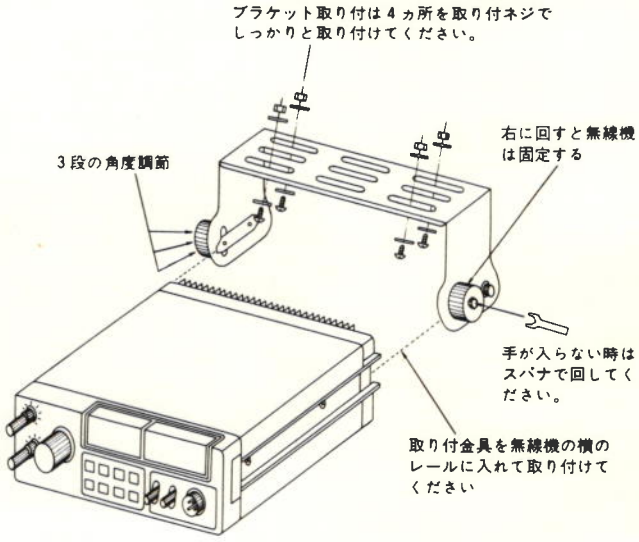
●取付け位置

①ダッシュボードの下
②コンソールボックスの横
③運転席の下



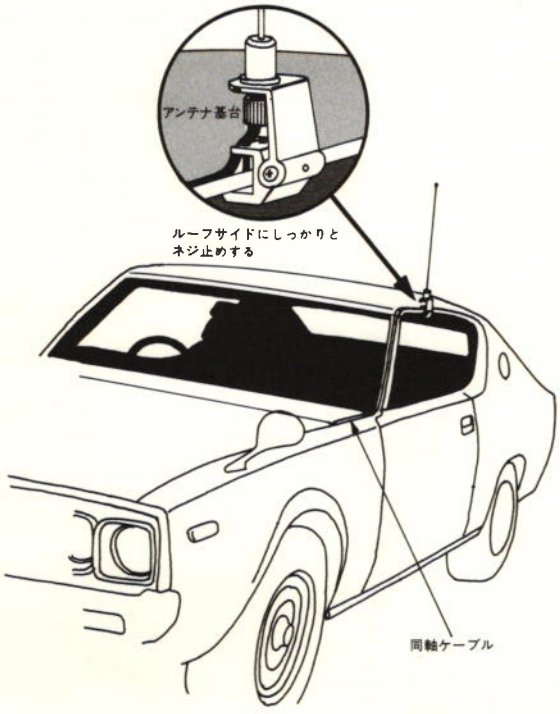
●ブラケット(付属)による取付け方法

3段の角度調節、前後の取付け位置自由の万能取付け金具です。

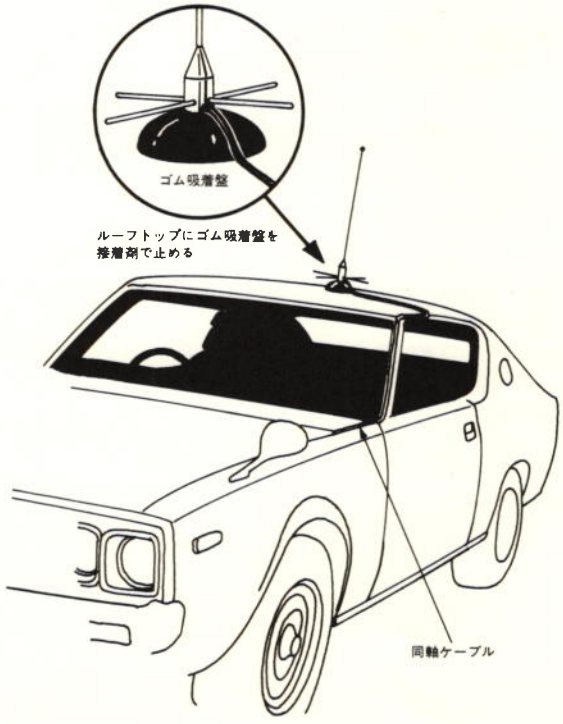


(2)アンテナの取付け

●ルーフサイド式

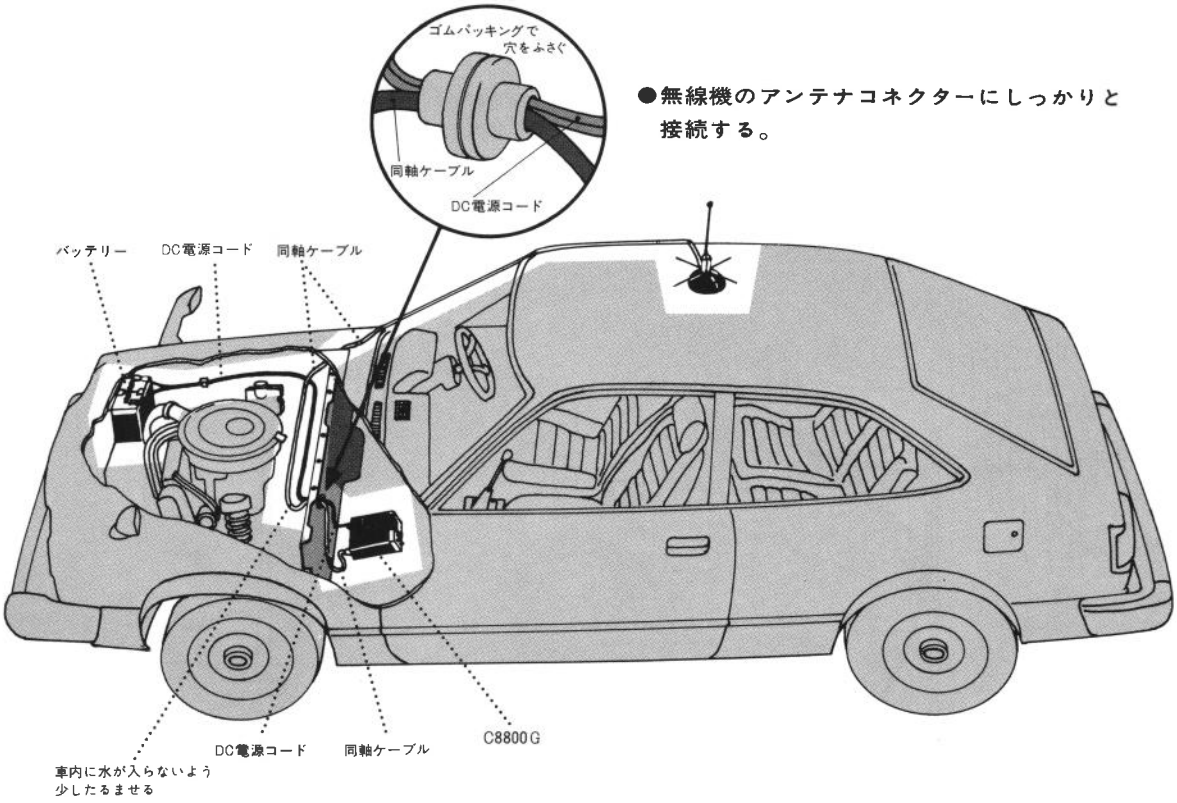


●ルーフトップ式



(3)同軸ケーブルの接続

●ボンネットから引き込む

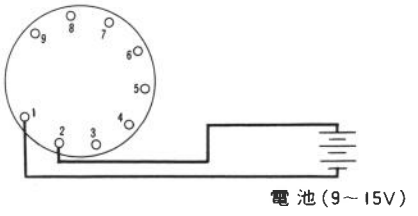


●無線機のアンテナコネクターにしっかりと接続する。

(4)電源の配線

●電源コードを車のバッテリーに直接接続しておき、後面の**BACK UP**スイッチを**ON**にしますと、C8800Gはセットの電源を切っても、メモリーを保持することができます。もし、電源コードをエンジンキーと連動する電源に接続しますと、**BACK UP**スイッチを**ON**にしてあってもメモリーを保持できません。

又、後面の**ACC**端子2番ピン(＋側)と1番ピン(Gnd)の間に9～15Vの別電池を接続し、**BACK UP**スイッチを**ON**にしておくと、セットを車からはずしてもメモリーは保持されます。

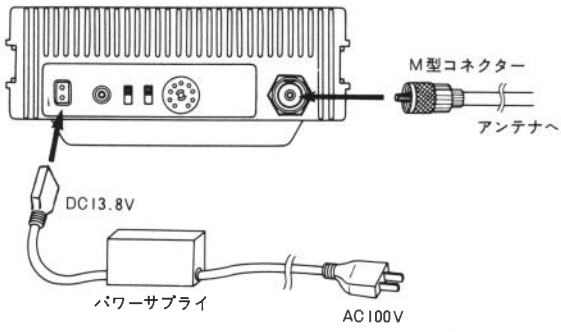


〈注〉DC電源コードの配線は、発熱するエンジン等にふれないよう配線し、テープで止めてください。

固定局の場合

(1)電　源

100Vから使用する場合は別売のパワーサプライをお使いになると便利です。



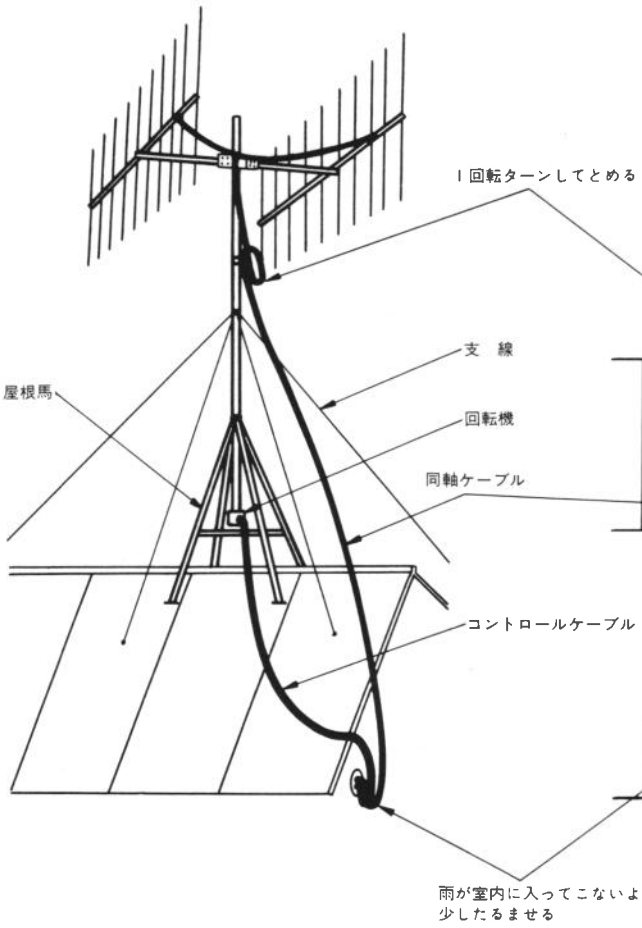
●電源を車のバッテリーより直接取らずに、エンジンキーオフの時に電圧の出るラインより取る場合スターターを回す時にのみ**OFF**になるラインがあります。テスターで確認の上、スターターを回しても**OFF**にならないラインより電源を取ってください。

(2)アンテナの取付け

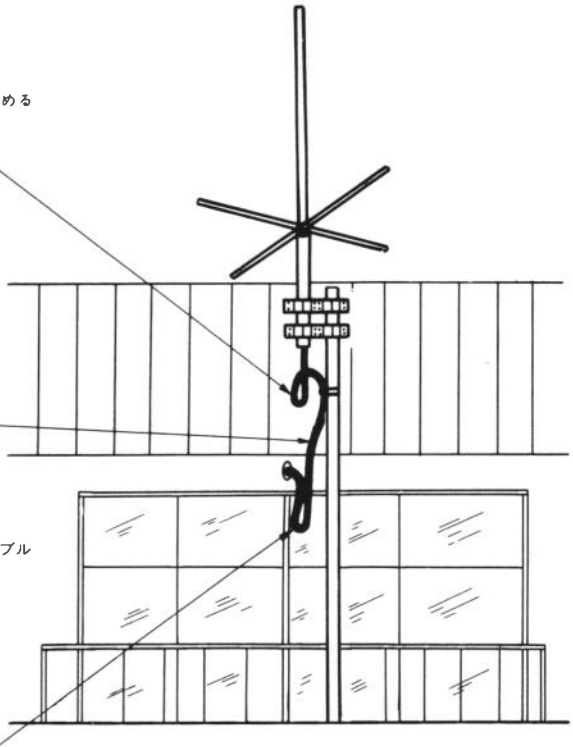
アンテナの性能及び取付け方によって、送信、受信の具合が大きく左右されます。性能のしっかりしたアンテナを選び、取付け後の調整も念入りに行なってください。

また、セットとアンテナを結ぶケーブルが長くなりますと、損失が大きくなります。同軸ケーブルは、なるべく短く配線するようにします。10mまでは5D－2V、30mまでは8D－2Vか10D－2Vをご使用ください。

〈屋根に取り付けた時〉



〈ベランダに取り付けた時〉



5. マイコンを使った運用方法

電源、アンテナ、マイクが正しく設置されたら実際に運用してみます。

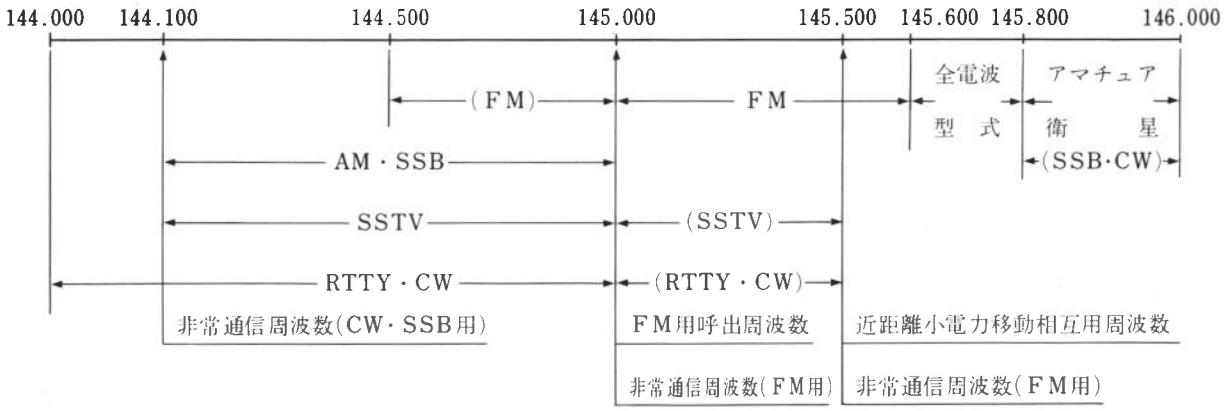
(1)運用に当って

●144MHz帯使用区分

144MHz 帯においては、下表に示されているバンド使用区分がJARL(日本アマチュア無線連盟)によって制定されていますので、この使用区分にそった運用をお願いいたします。

運用の際には使用電波のルールや慣習に十分注意し無用のトラブルが生じないようにご配慮ください。

● JARL制定144MHz帯使用区分



注：1.144.000MHz～144.100MHzの周波数帯は、月面反射通信、流星散乱通信、オーロラ反射通信等に使用する。
2.144.100MHz～144.200MHzの周波数帯は、主として遠距離通信に使用する。
3.144.500MHz～145.600MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。

(2)マイコンの操作

❶チャンネルステップの選択

まず、お好みによって、後面の**STEPスイッチ**で5kHzステップにするか、20kHzステップにするかを選択します。このSTEPスイッチは、電源スイッチを入れた状態で切り換えることができます。

❷電源スイッチとバックアップスイッチ

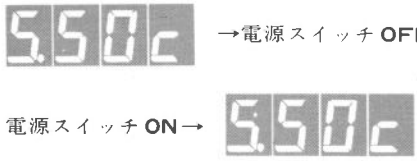
a. 初めて電源を入れると、マイコンのプログラムにより、145.00MHzになります。

b. もし、電源コードが車のバッテリーに直接接続されていれば、後面の**バックアップスイッチ**が**ON**されている状態で、電源スイッチを**OFF**すると、**OFF**する直前の状態がマイコンにより記憶され、次に電源スイッチを**ON**させると、**OFF**させる直前の状態になります。(但しスキャン動作は記憶されません。)

<例>

①周波数が145.240MHzになっている場合

②表示が5.50Cになっている場合



❸通常の周波数選択

ロータリースイッチ又は、**UP-DOWNスイッチ**で選択します。

● UP-DOWNスイッチの動作は次の通りです。

a. C8800Gの専用マイク(MP-716)には、**UP-DOWN**チャンネル・スイッチがついております。
スイッチを**UP**に押し続けると、高い周波数へ、又**DOWN**に押し続けると、低い周波数へそれぞれ1チャンネル120msのスピードで変化します。

b. **UP-DOWN**チャンネル・スイッチがはなれると、その時点で表示されていた周波数で停止します。

c. **UP-DOWN**チャンネル・スイッチが押されている時間が、0.5秒以下であれば、1ステップ進んで停止します。

d. **UP-DOWN**チャンネル・スイッチの動作中は、他のすべてのキーの動作はできません。プレストーク・スイッチを押して送信すると、スキャンは停止します。

e. [ALL]又は[MEMO]又は[CALL]を押しているときは**UP-DOWN**チャンネル・スイッチは動作しません。また、送信中は**UP-DOWN**チャンネル・スイッチは動作しません。

❹周波数をメモリーさせる方法

Ⓐ最初にメモリーさせるとき

電源を入れて、初めに周波数をメモリーさせるときは、次の方法で行なってください。
C8800Gは**M1・M2・M3・M4・M5**の5つの記憶回路を内蔵しており、5つの周波数をメモリーできます。

M1へのメモリー

a. [RCL]を押して、まず**M1**を呼出します。
([RCL]キーを押す直前の周波数が145.000MHzとします。)

メモリーされていないとき

点滅する

(4デジット目、右下のドットが点滅してM_1にメモリー周波数のない事を表示します。)

b. 希望する周波数にロータリースイッチ又は**UP-DOWN**スイッチで合わせる。(145.400MHzのとき)

希望する周波数を表示する

点滅する

c. [ENTER]を押すと、**M1**にメモリーされます。

点灯する

d. [RCL]を押して、**M1**にメモリーされた周波数を確認します。

M2へのメモリー

a. もう一度[RCL]を押すと**M2**を表示します。

メモリーされていないとき

点滅する

b. 希望する周波数にロータリースイッチ又は**UP-DOWN**スイッチで合わせる。(145.500MHzのとき)

点滅する

c. [ENTER]を押すと、**M2**にメモリーされます。

点灯する

d. [RCL]を押して、**M1**にメモリーされた周波数を確認します。

e. [RCL]を押して、**M2**にメモリーされた周波数を確認します。

M3へのメモリー

a. [RCL]を押すと、**M3**を表示します。

メモリーされていないとき

点滅する

b. 希望する周波数にロータリースイッチ又はUP-DOWNスイッチで合わせる。(145.600MHzのとき)

点滅する

c. ENTERを押すと、M3回路にメモリーされます。

点灯する

d. RCLを押して、M1にメモリーされた周波数を確認します。

e. RCLを押して、M2にメモリーされた周波数を確認します。

f. RCLを押して、M3にメモリーされた周波数を確認します。

M4へのメモリー

a. RCLを押すと、M4を表示します。

点滅する

b. 希望する周波数にロータリースイッチ又はUP-DOWNスイッチで合わせる。(145.700MHzのとき)

点滅する

c. ENTERを押すと、M4回路にメモリーされます。

点灯する

d. RCLを押して、M1にメモリーされた周波数を確認します。

e. RCLを押して、M2にメモリーされた周波数を確認します。

f. RCLを押して、M3にメモリーされた周波数を確認します。

g. RCLを押して、M4にメモリーされた周波数を確認します。

M5へのメモリー

a. RCLを押すと、M5を表示します。

点滅する

b. 希望する周波数にロータリースイッチ又はUP-DOWNスイッチで合わせる。(145.800MHzのとき)

点滅する

c. ENTERを押すと、M5回路にメモリーされます。

点灯する

d. RCLを押して、M1にメモリーされた周波数を確認します。

e. RCLを押して、M2にメモリーされた周波数を確認します。

f. RCLを押して、M3にメモリーされた周波数を確認します。

g. RCLを押して、M4にメモリーされた周波数を確認します。

h. RCLを押して、M5にメモリーされた周波数を確認します。

これで、M1からM5まで全部に希望の周波数をメモリーさせ終りました。

❺ ACCESSORY 機能

A_1、A_2、A_3 を周波数と一緒にする方法

アクセサリー A_1、A_2、A_3 も周波数と一緒にメモリーすることができます。メモリーの方法は周波数メモリーと同じ要領で行います。

a. RCL を押し M_1 を呼び出します。

b. 希望周波数に合わせます。（メモリー表示ドット点滅）

c. ACC を押し A_1、A_2 又は A_3 を選択します。（メモリー表示ドット点滅）

d. ENTER を押すと M_1 に周波数と一緒にアクセサリーの A_1、A_2 又は A_3 がメモリーされます。（メモリードット点灯）

e. RCL を押して M_1 にメモリーされた周波数とアクセサリーの機能ポジションを確認します。

以下 M_2～M_5 まで周波数メモリーと同じ要領でアクセサリーの各機能をメモリーすることができます。

❻ メモリー周波数を変更するとき

メモリーされている周波数を変更したいときは、簡単に新しい周波数がメモリーされます。

<例> M 2 のメモリー周波数を変更するとき

（この例は、M2にある145.800MHzを145.400MHzに変更するとき）

a. RCL を押して、M 2 になるまで順に押します。

（145.800MHzがメモリーされているとき）

点灯している

b. UP-DOWN チャンネル・スイッチ又はロータリーチャンネルスイッチを回して希望の周波数に合わせます。

（145.400MHzのとき）

点滅する

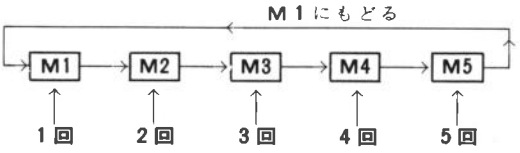
c. ENTER を押して、メモリーさせます。

点灯する

d. RCL を 2 回押して、M 2 にメモリーされたことを確認します。

❼ メモリー周波数を呼び出す方法

a. RCL を 1 回押すと、M 1 にメモリーされている周波数を表示します。もう一度 RCL を押すと、M 2 にメモリーされている周波数を表示します。順に RCL を押すことにより、M 3・M 4・M 5 と表示されます。したがって呼び出したいメモリー番号がある場合、その回数だけ RCL を押すことになります。



なお、6 回目から M 1 にもどります。

この場合、チャンネルセレクターの位置はどこになっていても又、スキャン状態中でも RCL が優先です。

b. しかし、CALL キーが押されて、145.00C 又は、145.50C のときは、この RCL は効きません。キャンセル CCL を押して CALL 状態を解除すると RCL できます。

c. RCL で、メモリー周波数になっているとき、CCL でメモリーを解除すると、RCL で押す直前の周波数に再び戻ることができます。

❽ 周波数スキャンの方法

Ⓐ 全周波数をスキャンするには

周波数を自動的に移動させる方法で、全周波数スキャンとメモリー周波数スキャンの方法があります。

又、スキャンのストップモードは三種類あります。

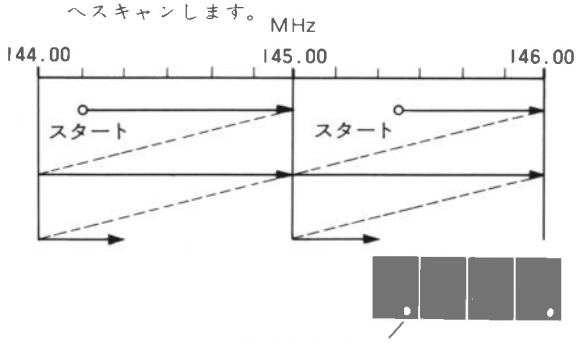
a. 144MHz帯又は145MHz帯をスキャンするには、

- MHz を押し144MHz帯又は145MHz帯を選びます。

次に

- ALL を押すとスキャンを開始します。

周波数はスキャンさせる直前の周波数から高い方へスキャンします。



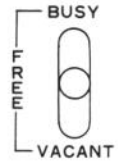
スキャン中は約 1 秒サイクルで点滅する。

スキャン時間

チャンネル / スイッチ	20kHz STEP（1 MHz）50チャンネル	5 kHz STEP（1 MHz）200 チャンネル
fast scan	約 12.5 秒	約 50 秒
slow scan	約1 分40秒	約6 分40秒

b. 話中のチャンネルを捜すには**スキャンモード・スイッチ**を

- **BUSY** 側に切換えます。
- スケルチ・ボリュームを調整します。
- 入力信号がある周波数の場所でスキャンを停止します。
- 入力信号がなくなると、ふたたびスキャンを開始します。



停止中も点滅します

入力信号がなくなったとき、ふたたびスキャンを開始する表示です。

- **プレストーク・スイッチ**を1回押して送信すると、入力信号が無くなっても、スキャンを開始しません。

点滅を中止する

c. 空チャンネルを捜すには**スキャンモード・スイッチ**を

- VACANT側に切換えます。
- スケルチ・ボリュームを調整します。
- 入力信号のない周波数の場所でスキャンを停止します。
- 入力信号があると、ふたたびスキャンを開始します。

停止中も点滅します

入力信号がなくなったとき、ふたたびスキャンを開始する表示です。

- **プレストーク・スイッチ**を1回押して送信すると、入力信号が有ってもスキャンを開始しません。

点滅を中止する

d. 連続的にスキャンするには**スキャンモード・スイッチ**を

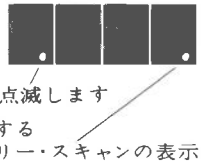
- **FREE** 側に切換えます。
- スケルチ・ボリュームを調整します。
- 入力信号の有無に関係なく1チャンネル0.25秒、又は2.0秒でスキャンします。

e. スキャンの動作を中止させるには

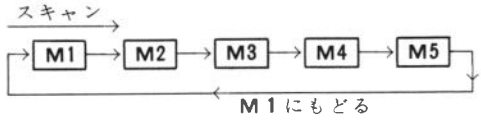
- CCL を押します。
- 又は**プレストーク・スイッチ**を1回押して送信します。

B 5つのメモリー周波数をスキャンするには

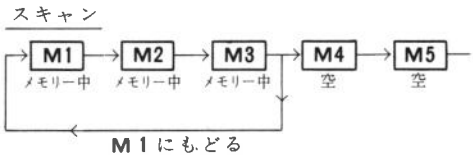
a. MEMO を押すと、M1から順にM2・M3・M4・M5とスキャンされます。



- 5つ全部メモリーされているとき



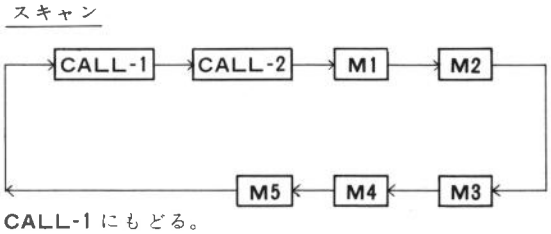
- M4・M5にはメモリーされていないとき



b. メモリー周波数と145.00MHzと145.50MHz を一緒にスキャンしたい場合は、

CALL → MEMO の順でキーを押します。

M_1 ～ M_5 までメモリーされている時のスキャンサイクルは次のようになります。



CALL-1 にもどる。

c. 話中のメモリーチャンネルを捜すとき、空メモリーチャンネルを捜すとき、連続的にメモリーチャンネルをスキャンさせるときは、夫々オールチャンネルスキャンと同じ方法で**スキャンモード・スイッチ**を選択します。

⑨ CALLキーの使い方

a. CALL を1回押すと、最優先で145.00MHzとなります。もう一度押すと、145.50MHzとなります。さらにもう一度押しますと、145.00MHzへ返ります。このとき、表示 C が追加されます。

1回目

2回目

b. CCL で解除するか又は MEMO キーを押さない限り他のキーを押しても効きません。

CCL で解除すると、CALL を押す直前の周波数に戻ります。

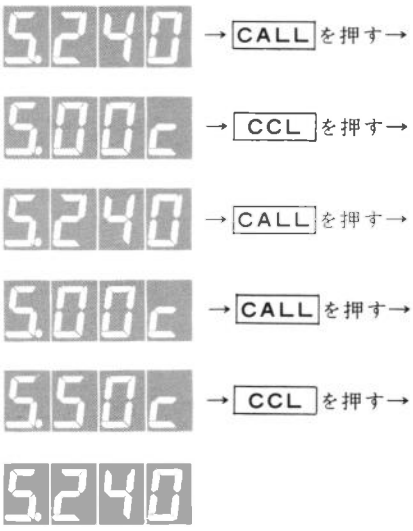
MEMO キーを押すことによりメモリー周波数と145.00MHzと145.50MHzを一緒にスキャンします。

⑩ その他の操作（便利な使い方の例）

a. CALL キーと CCL キーを使うことにより145.00MHz, 145.50MHzと他の任意の一波を自由に呼び出すことができます。

〈例〉

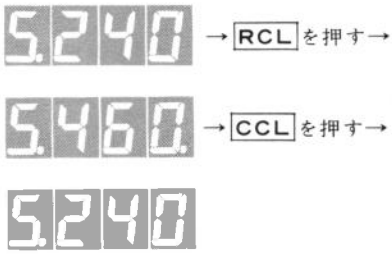
ロータリースイッチ、あるいはUP-DOWNスイッチで145.240MHzになっている場合



b. RCL と CCL を使うことにより、M1にメモリーされた周波数と他の任意の周波数の二波を自由に呼び出すことができます。

〈例〉

M1に145.460MHzがメモリーされていて、ロータリースイッチ、あるいは、UP-DOWNスイッチで145,24MHzになっている場合



c. オールスキャン、あるいはメモスキャン中に**プレストーク・スイッチ**を押して送信すると、スキャン動作は停止します。

この動作を利用して、スキャン中に希望する周波数になった時、あるいは希望する相手局を発見した時、手元のマイクロホンで瞬間送信することでスキャンを止めることができます。

d. マイクロホンの**UP-DOWNスイッチ**で1チャンネルずつ手動でスキャンできます。

(3)受信の方法

1. **PUSH ON/VOLスイッチ**③を押すと電源が入ります。メモリーがバックアップされていないときは、必ず145.00MHzでスタートします。

2. **VOLツマミ**③を回して適当な音量に調整します。

3. **SENSツマミ**①を回して LOC·NOR·DX と移動する場所の電波の状態により切換えます。

4. **SQLツマミ**②を回して信号がないときにノイズが消える最良点に調整します。

5. 希望する周波数に切換えます。周波数を切換える方法としては次の操作方法があります。

   a. **チャンネル切換えスイッチ**⑤で切換える。

   b. **UP-DOWNチャンネルスイッチ**㉙で切換える。

   c. **CALLスイッチ**⑪を押して145.00MHz・145.50MHzを呼出す。

   d. **SCAN ALL**⑩を押して全周波数スキャンします。**SCAN MODEスイッチ**⑭を切換えることにより、次の動作を行ないます。

   ● **BUSY**に切換える。
   話中の周波数で停止します。

   ● **VACANT**に切換える。
   空チャンネルの周波数で停止します。

● **FREE** に切換える。

スキャンを行ない周波数の状態を調べます。

SCAN SPEED スイッチ⑮を２段に切換えることができます。

SCAN STEP㉕を 5 kHz と 20kHz に切換えることができます。

e. **SCAN MEMO**⑫を押して、メモリーされた周波数をスキャンします。

SCAN MODE スイッチ⑭を切換えることにより、次の動作を行ないます。

● **SCAN ALL** のときと同じ

（SCAN MODE スイッチ、SCAN SPEED スイッチ）

f. **MEMO RCL**⑧を押して、メモリー周波数を呼び出します。

これらの操作は、(2) マイコンの操作の項で詳しく説明してありますので参照してください。

6. C8800G は超高感度に設計されており、DX ポジションでは混変調等の影響を受ける場合があります。より高い特性を発揮させるために、**SENS ツマミ**により、受信感度を次のように三段に切換えてお使いください。

DX ポジション：DX 通信の時に使用してください。

NOR ポジション：通常の通信の時に使用してください。

LOC ポジション：他局からの混信が多い時に使用してください。

(4)送信の方法

■電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり運用されています。これらの無線局の至近距離で電波を発射すると、アマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することがあり、移動運用の際には十分ご注意ください。

特につぎの場所での運用は原則として行なわず、必要な場合は管理者の承認を得るようにしましょう。

民間航空機内、空港敷地内、新幹線車輌内、業務用無線局および中継局周辺等。

❶送信しようとする周波数で他局に妨害を与えないことを確めます。

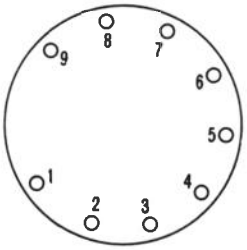
❷送信の空中線電力を LOW か Hi を **PWR スイッチ**④で決めます。

近距離での交信では LOW ポジションをおすすめします。

❸**プレストーク・スイッチ**㉚を押して送信します。マイクロホンに 5～10cm 位の距離で話してください。

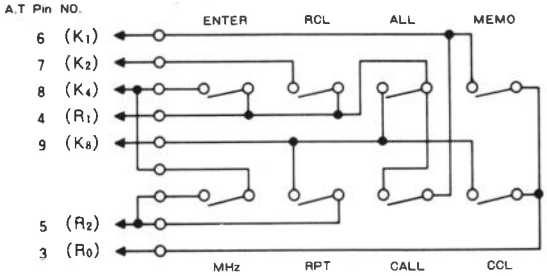
(5)アクセサリー端子

❶後面のアクセサリー端子は下図の様に接続されています。



1	GND	
2	EXT BACK UP	
3	R_0	キーボード用端子
4	R_1	
5	R_2	
6	K_1	
7	K_2	
8	K_4	
9	K_8	

❷リモート用キーボードを接続する場合は次に示す回路のものをご使用ください。



(6)圧電ブザーの音量調整

圧電ブザーは底蓋（スピーカ側）に取り付けられています。音量調整の半固定抵抗器は圧電ブザー用コネクターの横に位置していますので底蓋の 4 本のネジを取り、底蓋を持ち上げる事によりマイナスドライバーで調整することができます。

(7)マイコンのリセット

誤動作、あるいはキー動作がきかない時は次のようにしてマイコンをリセットしてください。

1. 一度セットの電源スイッチ及び後面のバックアップスイッチを OFF にしてください。（バッテリーやパワーサプライは接続したままでかまいません。）
2. OFF 後、約 5 秒ぐらい待ってあらためてセットの電源スイッチを ON にし、必要に応じてバックアップスイッチを ON にしてください。

6.申請書の書き方

本機によりアマチュア無線局を申請する場合には、市販の申請書に下記事項を記入し、間違いのないことを確認して申請してください。

〔工事設計書〕

区　　分			第 1 送 信 機	第 2 送 信 機
発射可能な電波の型式 周波数の範囲			電波の型式　　F_3 144MHz帯	電波の型式 MHz帯
変調の方式			可変リアクタンス変調	
終段管	名称	個数	2 S C2103A × 1	X
	電圧	入力	13.2V　　20W	V　　W
送信空中線の型式				
その他工事設計			電波法第3章に規定する条件に合致している	

● C8800GはJARL認定登録機種ですので、送信機系統図の記入を省略することができます。送信機系統図の欄にはC8800Gとご記入ください。

● 登録番号　S－20

第1送信系統図

● 送信型名　C8800G（日本マランツ）
S－20

7.保証・アフターサービスについて

1．この商品には保証書を別途添付してあります。保証書は「販売店印・保証期間」をご確認のうえ、販売店からお受取りいただき、よくお読みのうえ、大切に保存してください。

2．保証期間は、お買上げ日より1年間です。正常なご使用状態で、この期間内に万一故障の節は、お買いあげ販売店、又は弊社営業所で保証書記載事項に基づき「無償修理」いたします。

3．保証期間経過後の修理。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

4．補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買いあげ販売店、又は別紙の弊社営業所に遠慮なくご相談ください。

ご近所に迷惑をおかけしないように注意しましょう

楽しい送信も、時と場所によっては気になるものです。特に、静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。窓をしめて音を外にもらさないようにしたり、ボリウムの調整やヘッドホーンをご使用になるのも一つの方法です。お互に心を配り、こころよい生活環境を守りましょう。

8. 定　格

❶一般仕様

送受信周波数……144～146MHz

電波型式……F_3

マイク入力インピーダンス……600Ω

スピーカインピーダンス……8Ω

電　源……DC13.8V

寸　法(巾×高×奥)……168×58×240mm

重　量……3.0kg

❷受　信

受信方式……ダブル・スーパーヘテロダイン

中間周波数……1st 1F 10.7MHz

2nd 1F 455kHz

受信感度……DX時 −10dB(20dB QS)

−12dB(12dB SINAD)

NOR時 0dB(20dB QS)

− 1dB(12dB SINAD)

LOC時 +10dB(20dB QS)

+ 9dB(12dB SINAD)

通過帯域巾……±7kHz(−6dB)

選択度……70dB以上

スケルチ感度……−15dB

低周波出力……2W(10%歪率　8Ω負荷)

負荷インピーダンス……8Ω

受信無信号時の電流……0.6A

❸送　信

送信出力……10W

負荷インピーダンス……50Ω

スプリアス比……65dB

最大周波数偏移……5kHz

変調方式……可変リアクタンス変調

低周波周波数特性……300Hz～3000Hz

送信時の電流(Hi)……3.5A

本機の規格および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

MEMO

日本マランツ株式会社

本　　社　〒228 神奈川県相模原市上鶴間3622
営業本部　〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

ご注意：お問合せは日本マランツ(株)各営業所で承っておりますので全国営業所一覧をご覧ください。

Printed in Japan

4785851113